

《2023年度 ICD日本部会 総会・認証式 特別講演》

## 岐路にある人類と地球 ～気候変動と生物多様性の危機そしてSDGs～

明治大学 学長特任補佐  
国際自然保護連合 日本国内委員会顧問



### 堀 江 正 彦

#### ●抄 録●

気候変動と生物多様性は地球規模的な危機的状况を呈している。気候変動に関しては「京都議定書」に続く「パリ協定」が採択され、国際的な対応が加速度的に進行している。生物多様性についても「愛知目標」に続く「ポスト2020生物多様性枠組」が採択された。これらの国際的な取組みと問題点について、SDGsにも敷衍して説明する。

キーワード：地球規模的危機、気候変動と生物多様性の危機、パリ協定、ポスト2020生物多様性枠組み、SDGs

#### I. 気候変動危機

国連の気候変動枠組条約の下において、先進国は、温室効果ガスの人為的排出を抑制する政策をとるよう合意するとともに、先進国は削減義務を負い、途上国は削減義務を負わず、先進国の途上国支援義務が課せられた。

この枠組みの下で、京都議定書が策定され、先進国に対し、温室効果ガスの排出を一定数量削減することが義務付けられたが、米国は議会の了承が得られず批准できず、中国が最大の排出国となり、京都議定書は世界の総排出量の4分の1しかカバーしない合意になってしまった。

こうした中で日本が主張したのは、京都議定書が公平でも有効でもなくなったので、全ての締約国に適用される新たな枠組みが必要だということであり、その結果出来上がったのがパリ協定である。

パリ協定は、世界全体の気温上昇を2℃未満に抑制、出来れば1.5℃以下にする。そのために全ての締

約国が、漸増的な削減目標を5年ごとに提出し、レビューを受けることを決めた。

また途上国援助1000億ドルを下限として供与し、2025年までの新しい目標額を設定する決定があったが、現在まで未達の状況にある。

パリ協定に基づく2025年から2030年に向けた各国の削減目標は、当初日本は26.0%減、米国は26～28%減、EUは40%減であったが、そんなことでは気候変動を克服することができないので、その後各国とも2050年にはカーボンニュートラルを実現目標とするようになり、2030年に向けた新たな削減目標を打ち出している。

大きな問題は、パリ協定に基づく削減努力によっても、1.5℃目標はもちろんのこと、2.0℃目標でさえ到底到達しないことである。そうした意味でも、世界は危機的状况にある。

#### II. 生物多様性の危機

生物多様性の喪失が大きな危機的状况を示してい

る。スウェーデンの研究機関の博士が作成した地球システムの境界（図1）を見ると、気候変動と窒素循環、生物多様性において、危機的状況が見られる。つまり人間の経済活動が自然環境に深刻な影響を与えている。

開発、伐採、火災などにより世界の森林が消失し、年間1000万ヘクタールもの森林が消失している。森林の消失の問題は、感染症の拡大にも影響する。

また身近な例では、マグロやウナギなどを日本人や中国人が食べ尽くしている。日本の消費によって生物多様性の喪失を招いている地域は、東南アジア諸国中心に、世界各国に及ぶ。

### Ⅲ. SDGsで地球環境を次世代へつなぐ

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、エネルギーや技術革新、気候変動、海の生態系、陸の生態系、平和・人権なども含めた17のゴールを目標としている。

今後は、その土台（図2）となっている気候変動対策と生物多様性保全を、持続可能な社会の実現のための基本的な目標として達成して行かなくてはならないことを、世界全体で意識する必要がある。

最後に（図3）になるが、今後は、市民が、ライフスタイルを革命的に変える必要がある。そして、倫理的な消費者行動とそのための誘引や刺激の導入が必要だ。

### Planetary Boundaries－地球システムの境界－

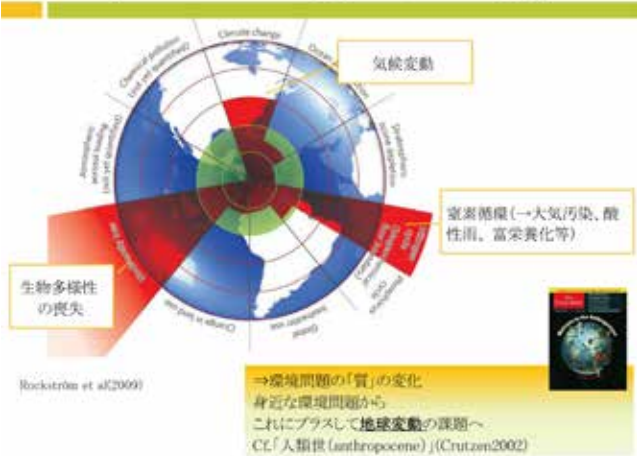


図1 地球システムの境界

企業が、経営理念をSDGsに合わせることに意味を見出す必要もある。生産・消費双方でエコ経営やエコ商品を重視するとともにESGの主流化が望まれる。

政府は、気候変動や生物多様性の保全に関する国際公約を遵守すべく努力を倍加していかなければならない。企業や市民の行動を誘導するような政策をとる必要もある。

そして、地球温暖化への対処としては、いずれ本格的な炭素税の導入が必要となり、生物多様性の保全のためには、自然資本に対する価格付が必要となる日がやって来る。

結論として申し上げたいことは、本日ご説明した努力を全て真剣に行って初めて、次世代に健全な地球環境を引き継ぐことができるということである。



図2 自然資本の重要性

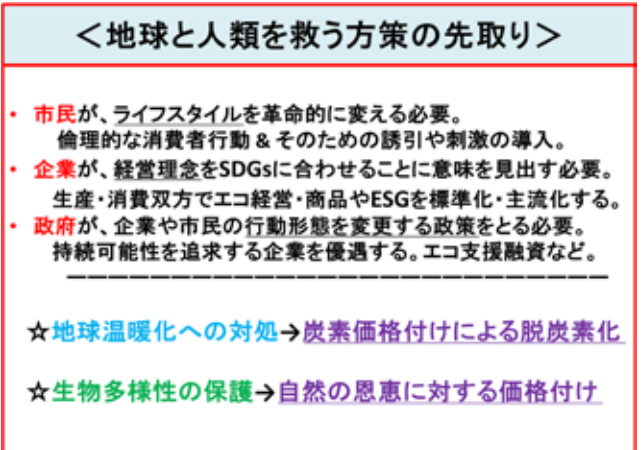


図3 地球と人類を救う方策の先取り

## Humanity and Earth at a Crossroads: ～ Climate Crisis, Biodiversity Crisis, and the SDGs ～

*Meiji University Special Advisor to the President  
Advisor, Japan Committee of International Union for Conservation of Nature*

Masahiko HORIE

Climate change and biodiversity loss present a double global crisis. The Kyoto Protocol and the Paris Agreement were adopted for climate change and the international responses have been accelerating. As to the protection of biodiversity, the Post-2020 Global Biodiversity Framework was adopted following after the Aichi Targets. The lecture elaborates on these international efforts and challenges, while elaborating the significance of Sustainable Development Goals (SDGs).

**Key words** : Global Crisis, Climate and Biodiversity Crises, Paris Agreement, Post 2020 Biodiversity Framework, SDGs